

【能勢町教育委員会】

校務 DX 計画

本計画の目的

令和 5 年 3 月に文部科学省により次世代の校務の在り方として、クラウド環境を活用した業務フロー自体の見直しや外部連携の促進、データ連携による新たな学習指導・学校経営の高度化の方向性が示された。加えて、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検が求められ、その結果、本町では次の事項で課題があることがわかった。

<学校>

- ・保護者と学校の相互連絡や情報共有におけるクラウドやオンラインの活用。
- ・職員会議のオンライン参加の導入・校内研修でのオンデマンドやクラウドの活用
- ・職員の事務手続き・一般業務でのICTの積極的な活用

<学校設置者>

- ・教育委員会主催研修におけるクラウド利用やオンライン化の推進
- ・学校との各種事務のペーパーレス化とクラウドの活用。
- ・会議でのオンライン参加の導入やクラウドの活用

また、本町が設置する公立学校が義務教育学校 1 校のみであることを踏まえると、次の点に考慮して校務DX計画を策定する必要がある。

- ・現状で教育委員会と学校が密接に連携しており、ロケーションフリー以外において、会議等の幾つかの業務はICTの活用によらずともスムーズに実施できる。
- ・前期課程及び後期課程の教職員定数が総勢で 50 名から 60 名と小規模であり、校務DX計画の基礎となるICT環境の整備についてコストパフォーマンスに配慮する必要がある。

以上を踏まえて所管校における業務のDX化に向けて運用等の改善をはかるとともに、以下の挙げる点について業務環境を整える。

1. 校務用端末と指導用端末の統一に向けて

GIGA 1 期の校務用端末の利用については、端末上でデータを編集し、物理サーバにデータを保存し、職員間で共有していた。セキュリティとしては、暗号化及びUSBフラッシュメモリを使った物理キーによるアクセス制御を施し、同時にベンダーによる端末

管理を行っていた。また、校務用端末が利用できる場所を職員室内に限定し、データの持ち出しが無いように人的な対策を行った。

GIGA 2 期を迎え、児童生徒用端末の更新（Windows OSからChrome OSに変更）に伴い、校務用端末と指導用端末の統一化に向けて段階的に進めていく。まず、GIGA 2 期の更新にあわせて、校務データの管理を物理サーバからクラウドへ移行する。令和 7 年度中に整備を進め、令和 8 年度からの本格運用開始をめざす。また、クラウド移行に伴って、セキュリティーポリシーを同時に更新する。セキュリティーポリシーについては、教職員への周知だけでなく、校務の在り方やセキュリティーに関する意識をアップデートするための研修の場を設けていく。

最終的に、次の端末更新時期（GIGA 3 期）を目途に、校務用端末と指導用端末の統一を実現させ、校務におけるシンプルなICT環境の構築を実現する。

2. クラウドを活用した校務への移行とロケーションフリーの導入について

クラウドを活用した校務へ移行するにあたり、能勢町としては校務用端末（Windows）と併用して指導用端末（Chromebook）でも一部の校務を行えるようにネットワークの構築を行う。セキュリティーポリシーに定める重要性分類に従い、重要性と機密性が高い教育情報を除いて、指導用端末および校外のネットワークにおいてもクラウド上の共有ドライブにアクセスできるようにする。また、指導用端末を活用して、チャット機能やメール機能による職員間の連絡共有を可能とすることで、ロケーションフリーによる校務を可能とし、教職員がより働きやすい環境を整えていく。

一方で、セキュリティーポリシーにおける重要性と機密性が高い情報についても、クラウド上での情報管理とするが、他の情報と領域を分け、アクセス制御や暗号化、校内ネットワーク内でのアクセスのみ認めるなど、技術的、物理的にセキュリティー対策を施し、教育情報資産を守っていく。

また、校務のデジタル化に併せて、他のアナログ業務についても整理していく必要がある。ペーパーレス化等について所管校の状況を鑑み、段階的に進めていくものとする。

3. クラウドを活用した各種アプリケーションの導入について

校務における各種アプリケーション等についても、段階的に見直しを行っていく。具体的には、校務支援ソフト（諸帳簿の作成や成績の管理）、保護者からの出欠連絡、教職員間のコミュニケーションツール、学習ドリル（授業支援ソフトを含む）が挙げられる。現状では、アプリケーションが多岐にわたっており、業務フローが複雑で不合理なアナログ作業が業務の中に多く存在しており、それらを整理していく必要がある。例えば、保護者からの欠席連絡が、出席簿および諸帳簿の記録に反映されず、共有のためにアナログで書き出す作業が行われていたり、諸帳簿に反映させるために担任が別のアプリケーションに入力作業を行っていたりする。また、職員向けの連絡、周知のツールが多様

化していることで、確認の漏れ落ち等が発生しやすい状況にもある。電子で共有しているものを改めて紙で印刷して配布しているケースもある。

これらの状況を改善するために、校務のクラウド化をきっかけにアプリケーションのスリム化を進めていく。GIGA 2 期に併せて、各企業等による多機能（出欠確認、成績処理、諸帳簿の作成、教職員間の連絡、施設予約、保護者連絡、授業支援等）を包括的に対応できるアプリケーションの開発、実装が進められているため、今後、利用するアプリケーションを段階的に精査し、保護者との相互連絡など現時点における課題解決とアプリケーションを生かした業務フローの整理を図る。

4. ICT担当者会の実施と委託業者との連携について

GIGA 2 期に向けて、能勢町教育委員会と所管校の管理職およびICT担当者によるICT担当者会を開き、情報共有や検討を進めてきた。今後はICT担当者会を引き続き設置し、児童生徒用端末の導入および校務用、指導用端末入れ替えに伴う業務の在り方について検討を進めていく場とする。

特に、先進的に校務や授業でICTを活用している自治体および学校の取組実例を積極的に集め、ICT担当者会において情報共有し所管校での実施について検討していく。

また、保守管理等を委託している業者とも密に連携を取り、校務でのICT利活用の状況を把握するとともに、クラウド環境やオンライン業務の本格的な利用に伴うインシデント対応について確認し、様々な状況にスムーズな対応ができる体制を整えておく。

5. 校務DXに係る当面のKPIについて

KPI	取組内容	現状値 (令和6年度)	目標値
FAXでのやり取りの原則廃止	先方からの指定でない限り、FAXでのやり取りを廃止。(諸帳簿の押印廃止は取組み済み)	90%	100% (令和10年度)
校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の効率化	校務における不必要な手入力作業の一掃をめざし、各種アプリケーション等の統一化を進める。	0%	100% (令和10年度)
クラウド環境を活用した校務DXを積極的な推進	児童生徒用端末および指導用、校務用端末の入れ替えに伴い、データの保存領域をクラウドへ移行。業務もクラウドベースに移行する。	0%	100% (令和10年度)